

科目名	看護教育学特論	担当教員	児玉 有子
科目属性	専門科目D	単位数	2単位(面接0.25単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業概要】</p> <p>本講義で、看護基礎教育領域で教育者に必要な要件を理解し、教育活動を展開できる能力を習得する。</p> <p>看護学における基礎教育実践者が備えるべき教育理論、授業設計や講義、演習、実習指導について具体的方法について習得する</p> <p>【授業到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学教育歴史と制度について説明できる ・看護学教育に関連した法規を踏まえた授業計画、学習指導案が立案できる。 ・教育技術、教育方法を踏まえた授業設計をし、学習指導案立案ができる。 ・現任教育現状と課題を説明できる。 			
<p>【授業計画】</p> <p>本科目、スクーリング授業 0.5 単位、印刷授業（自学自習） 1.5 単位合計 2 単位科目である。</p> <p>評価「スクーリング評価」（25%）、「レポート評価」（25%）、「科目修得試験」（50%）割合で総合して評価する。</p> <p>（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育と（1～2回相当） <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本看護学教育変遷と関係法規 <ol style="list-style-type: none"> ① 日本看護師養成課程変遷を説明できる。 ② 日本看護師養成課程を規定する法規を説明できる。 (2) 諸外国看護学教育変遷と関係法規 <ol style="list-style-type: none"> ① 興味がある国を一つとりあげ、その国の看護師養成課程を説明できる。 ② 対象国と日本制度と違いを説明できる。 ③ 対象国の課題を説明できる。 (3) 日本看護師養成課程が備えるべき要素 <ol style="list-style-type: none"> ① 現行法で規定されている養成課程（3年課程）が備えるべき要素を説明できる。 ② 現行法で規定されている養成課程（3年課程以外）が備えるべき要素を説明できる。 (4) 専門職として後進を育てる意義 <ol style="list-style-type: none"> ① 専門職として後進を育てる意義を説明できる。 2. 看護学教育方法（3～5回相当） <ol style="list-style-type: none"> (1) 理論と方法 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 授業と何か (イ) 授業展開基礎知識 (ウ) 対象理解 (2) カリキュラム構成基本 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 看護基礎教育課程定義と構成 (イ) カリキュラム構成 			

<p>(ウ) 教育目的と教育課程</p> <p>(3) 講義、演習と臨地実習特徴と教授活動</p> <p>(4) 講義、演習と臨地実習授業計画と展開</p> <p>(5) 教育評価</p> <p>3. 看護基礎教育における授業計画と学習指導案 (5～6回相当 ; スクーリング)</p> <p>(1) 講義に関する授業計画と学習指導案作成 (7～9回相当)</p> <p>① カリキュラムと講義計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分専門領域科目についてカリキュラム全体で位置づけを説明できる。 <p>② 題材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分専門領域における題材研究を行い、説明できる。 <p>③授業計画案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分専門分野でもっとも得意とする題材について、授業計画案を作成できる。 <p>(2) 演習・臨地実習に関する授業計画と学習指導案作成 (10～12回相当)</p> <p>① カリキュラムと演習・臨地実習計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分専門領域科目実習についてカリキュラム全体で位置づけを説明できる。 <p>②題材研究</p> <p>自分専門領域における実習科目題材研究を行い、説明できる。</p> <p>③臨地実習指導案</p> <p>自分専門分野でもっとも得意とする題材について、実習指導計画案を作成できる。</p> <p>4. 現任教育 (13回)</p> <p>(1)現状と課題</p> <p>① 現任教育現状と課題について、所属施設状況を踏まえて説明ができる。</p> <p>5. 模擬授業 (14～15回 : スクーリング)</p> <p>(1)3. で立案した、授業計画に基づき、実際に模擬授業をすることができる。</p> <p>(2)実施された模擬授業にたいする評価することができる。</p>
<p>【評価方法】</p>
<p>【教科書】</p> <p>1. 舟島なをみ. (2013) . 「看護学教育における授業展開—質高い講義・演習・実習実現に向けて」,医学書院 ISBN: 9784260016889</p> <p>2. 杉森みど里／舟島なをみ. (2014) . 「看護教育学 第5版増補版」,医学書院 ISBN: 9784260019613</p> <p>3. 美鈴グレッグ／池西悦子. (2009) . 「看護教育学—看護を学ぶ自分と向き合う (看護学テキスト NiCE)」,南江堂 ISBN: 9784524250493</p>
<p>【参考図書】</p> <p>なし</p>